

新春の集い 平成26年1月24日(金)

於：ホテルグリーンタワー幕張

INDEX

新春の集い	1
臼井先生連載	2
会員企業訪問 (株北原防災)	3
例会委員会 / 私の近況	4
会員異動 / スケジュール	4

昭和歌謡で新しい年がスタート 月星会新春の集い開催



産方会長による開会の挨拶 今年の展望を語る臼井先生 穴倉直前会長による乾杯音頭 猪口邦子参議院議員 門山宏哲衆議院議員 小林鷹之衆議院議員 豊田直樹商工会議所青年部会長

月星会の新年は、恒例の「新春の集い」から始まります。今年は1月24日(金)午後6時30分からホテルグリーンタワー幕張で行われました。

例年のように土曜日ではないため出席者の数が気になりましたが、会員43名、ご来賓7名、ビジター 3名の合計53名の方々にご出席いただきました。誠にありがとうございます。

今回の新春の集いは、昨年の10月から準備を始め、会長、副会長、委員会のメンバー皆様のお力で何とか終える事ができてホッとしております。

当日は産方会長の挨拶に始まり、続いて臼井先生からは今年の展望を含めた挨拶をいただきました。

続いて、来賓の方々の紹介。今年は次の方々においでいただきました。あらためてお名前をご紹介します。

松野博一衆議院議員秘書・伊藤孝行様、猪口邦子参議院議員及び秘書で妹さんの斉藤久代様、石井準一参議院議員秘書・森崎大輔様、門山宏哲衆議院議員及び秘書の石原裕久様、衆議院議員・小林鷹之様、秋本真利衆議院議員秘書・鈴木貴久様、商工会議所青年部会長・豊田直樹様。

以上の皆様、ご出席ありがとうございました。

来賓の紹介が終わるといよいよ乾杯です。乾杯の発声は恒例により直前会長の穴倉龍子相談役。いつものように着物姿

も艶やかに乾杯音頭を取っていただきました。

しばらくの歓談後、メインアトラクションの開始です。

初めに横田会員による新春にふさわしい舞の披露、十分に盛り上がったあと「ギター弾きのNabeSat o」こと渡辺聰さんの登場となりました。

渡辺さんは毎月最終日曜日に青葉の森公園でギターを弾きながら懐かしい昭和歌謡をみんなで歌う活動をされている方です。

今回ご出演をお願いしたのは、新春の集いでアトラクションは何をしようか委員会で話し合うなか、金田委員から公園で懐かしい昭和歌謡をみんなで歌い盛り上がっているグループがあるという情報からでした。

一度見てみようかと会長と委員会メンバーで出向き、「例年のアトラクションとは趣きが違うので今年はこちらで行こう」となった次第です。

本番ではなかなか皆さんエンジンがかからないようでしたが、徐々にお酒のガソリンが入るにつれて盛り上がってきました。

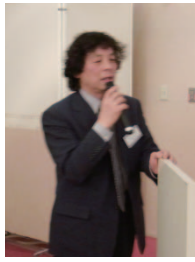
長谷川会員、志村会員の名司会者コンビによる進行もよく、臼井先生も津軽海峡冬景色を熱唱され、その美声を披露してくださいました。

その後はテーブルごとにリクエスト曲を歌うなど、みんなで昭和歌謡を満喫しました。

宴もたけなわとなる頃に門山宏哲先生、小林鷹之先生のエースお二人と華やかな猪口邦子先生がお見えになり、新年のお言葉と今年の抱負を語っていただきました。

最後に1月の誕生日の方に会長から花束のプレゼントがあり、高柳副会長による三本締めで宴を締めくくっていただきお開きとなりました。

産方会長のスローガン「人の輪・心の輪・笑顔の輪」にふさわしい月星会2014年のスタートイベントでした。(吉田光一親睦委員長)



金田会員から
渡辺聡さんの紹介



「ギター弾きのNabeSato」こと
渡辺 聡氏



横田会員の舞の披露



渡辺さん手製の歌本を眺める



一同輪になり日の出の男をみんなで合唱



1月の誕生日の方々



高柳副会長より
閉会の挨拶

連載

うすい日出男の 〈こくせいふかん〉の目

祖国日本に誇りと自信を！

昨年10月に伊勢神宮の第62回式年遷宮が行われたが、その式典に安倍総理の姿が見られた。この式年遷宮は持統天皇の御代から千三百年の間、20年毎に遷宮を続けてきた日本の歴史の原点ともいべき神聖な式典です。

この式典に現職の総理大臣が出席したのは、なんと昭和5年以來84年振りとのことで、安倍総理の敬神崇祖の念の篤さに感動する次第です。

一方、昨年12月26日に安倍総理は靖国神社に昇殿参拝した。安倍総理は第一次安倍内閣では靖国神社参拝できなかったことを「痛恨の極み」と嘆いたが、その念願を7年振りに実現した。この参拝を中国や韓国は得たりとばかり非難したが、一国の総理が自国のために命を捧げた英霊に慰霊の誠を捧げることは当然のことで、近年の日本の歴代総理では、福田総理4回、鈴木総理8回、中曽根総理10回、橋本総理1回、小泉総理6回と公

私の別はともかく、参拝を行ってきた。問題は民主党政権時代の空白こそ、問われるべきであろう。そして共同通信のアンケートで、安倍総理の参拝について「参拝はよくなかった」とする47%の国民の意識こそ問題ではないか。

英国のBBC放送が毎年、主要17カ国で最も世界貢献をした国についての世論調査をしているが、一昨年は久しぶりに1位、昨年は4位であったが、その順位はともかく、私が問題と思うのは、どこの国でも、「自分の国は世界に貢献している！」という過剰とも思える程誇りをもっており、その率は80%を超えているが、唯一の例外が日本で、僅か40%台しかいないということだ。日本は世界でも最も世界貢献をしている国なのに、どうしたことだろうか。我々日本国民はもっと「自国に誇りと自信」を持つ必要があると思うが如何だろうか。



元衆議院議員 白井日出男

第17回 (株)北原防災

「防災業界」の確立をめざして半世紀

県民の安全・安心づくりに尽くした
情熱を次世代に

身近なはずなのに馴染みのない業界

東日本大震災以降、私たちは「防災」という言葉を身近に受け止めるようになった。これまであまり関心のなかった会社や団体、学校、マンションなどで俄かに防災訓練を始めたり、防災グッズを揃えたりしている。

もっとも阪神大震災など大きな災害が起こったあとは、いつもそうだったのかもしれない。ところが、喉元過ぎれば……で、何年か経つといつの間にか防災観念からリアリティが抜けていく。これが今までの常だった気がする。

株式会社北原防災。社名はまさしく“旬”だ。旬なのではあるが、どうも馴染みが無い。「防災」が付けば、それだけで馴染みがあって然るべきなのに、なぜか馴染みが無いのである。

調べてみたら、「防災」を社名につけている会社は、多くはないが結構ある。いずれも、防災の専門会社だ。

もちろん、千葉県内にもある。北原防災だけではなく、である。であるのに、馴染みが無いのはなぜか。

北原防災の創業者であり、現会長の北原俊彦さんと話をする中で、この疑問は解けた。

要は、「防災業界」の歴史がきわめて浅いのである。そのために、「これが防災業界だ」という明確なイメージが一般の人たちは描けないということのようだ。

少々意外だったのだが、産業分類もしくは職業分類では、この業界は建設業に入るのだそうだ。具体的には、北原防災は建設業の中の「消防設備施設業」に所属する。

北原会長は、「一般の人には、職業分類では探せないほどの位置にあるマイナーな業界」と言う。

「消防設備施設業という分類ができたのは、そう古い話ではありません。結局、役所関係が独立した分野ではないと見ているのです。下請け的な業界だと……」

いつ産業分類や職業分類の中に登場したのかは不明だが、防災専門会社が産業界において一定の市民権が得られない状況は長く続いたようだ。

北原会長は昔を思い出しながら、しみじみとこう語る。

「独立した分野ではないと見られているので、役所への入札に参加できないなど、ずっと不遇な扱いの中で仕事をしてきました。でも、ただ黙っているわけにはいかない。独立した業界として認められるよう動きましたね。自分の会社の仕事をほったらかしで協同組合や協会づくりに奔走しましたよ(笑)」

奔走した結果、千葉県内では社団法人千葉県消防設備業協会や千葉県消防設備安全協会、千葉県消防設備協同組合の設立を成し遂げた。社団法人では会長を3期6年務めている。

奔走したのは県内に限らない。国レベルの活動にも関与している。たとえば、財団法人日本消防設備安全センターの理事を10年ほど務め、消防設備士制度の矛盾について消防庁に発信するなど役員としての役割を果たしている。



功績を称える表彰は数多く

こうした防災業界への功績は、千葉県のみならず国も高く評価し、これまでに数多くの表彰を受けている。主だった例をあげてみよう。

- ・1993年 千葉県知事表彰(消防防災功労賞)
- ・1994年 消防庁長官表彰(防災功労賞)
- ・2004年 日本消防設備安全センター表彰(消防設備点検済表示制度推進優良事業所受賞)
- ・2005年 内閣総理大臣表彰(安全功労賞)
- ・2011年 藍綬褒章叙勲

2011年春の叙勲は、震災のために実際には9月に延期されているが、この叙勲を祝って、当時総理大臣になったばかりの野田佳彦氏から直筆の手紙を受け取っている。

これらの表彰は、北原会長が正当な防災業界の確立に本気で努力した証しにほかならない。

北原会長は、これらの表彰を銜うことなく素直に喜び、自らの誇りとしている。

「業界の他の人はどう思っているのかはわかりませんが、少なくとも千葉県内の防災業界の地位を確立し、向上させたという自負はあります」

防災専門会社には、県内でも北原防災より売上げの大きいところはあるが、同社が、そして現会長が歩んできた業界のバイオニアたる功績を否定する人はいないであろう。

北原会長が北原防災を創立したのは1962年である(設立当時は、北原防災サービス社。1970年に現社名)。その時、23歳。トヨタのレーサーをしていた実兄と2人で創業したが、やがて実兄はレーサーのほうに集中し、弟の北原会長がその後を引き受けた。

北原会長はそれまで東京の設備会社に勤務しており、仕事の中に防災関連業務が多くあった。その経験をバネに防災専門会社を興し、発展させてきたのである。

現在は、売上げの半分が防災の点検業務になっており、会社の利益率は高い。すでに北原会長は経営実務を長男に譲っており、趣味の時間を大切にしていると言う。

ちなみに、北原会長は月星会のチャーターメンバー。取材当日は産方会長も同席し、ひとしきり月星会立ち上げ時の話に花が咲いた。

(取材・文/奥平)

例会委員会

夕食例会

於：鯨割烹みどり

11月26日(火)、受付開始17:50分、食事は18:00から、例会を18:30から「鯨割烹 みどり」で開催しました。

今月の卓話は元 千葉市立緑町小学校校長 千葉文好様、テーマは「千葉市の歴史」について、お話しを頂きました。



元 千葉市立緑町小学校校長
千葉文好様

大人の経験から見た千葉市の歴史ではなく、小学校の校長先生が子供の視線から見た考えた、千葉の歴史の移り変わりを話して頂きました。

また、千葉の歴史を「かるた」にして楽しくわかる様に作成されました。

12月19日(木)、受付開始17:50分、例会を18:30から「鯨割烹 みどり」で開催しました。

今月の卓話は臼井日出男先生テーマは「素晴らしき哉！ニッポン」についてお話しを頂きました。

まだまだ、素晴らしい日本人の姿についてお話を頂きました。

先生のお話し修了後、ミニ忘年会を開催。

久しぶりの飲み放題、時間の許す限り楽しみました。

(例会委員長 土屋文武)



11月のお誕生日



12月のお誕生日

私の近況

林 昇志さんの巻

私が企業を興して今年61周年を迎えます。

平成25年6月4日に商工会議所の推薦(在籍30年)で経済産業省局長表彰を頂きました。また、同10月25日には、生活衛生同業組合の推薦で厚生労働大臣表彰を頂きました。創業60周年の節目に業績が認められての表彰で光栄なことと思います。

平成23年には、千葉西地区安全運転管理者協議会(西警察署)会長として15年務めたことで県知事表彰と千葉県警察本部長表彰を頂きました。私にとってこの2年で、身に余る出来事でした。今後も社会福祉増進と文化スポーツの推進に寄与していきたいと思っております。

(株)グリーンタワー 相談役社主



3・4月のスケジュール

3/12(水)	役員会	18:30開会	プラザ菜の花
3/14(金)	第2回経営研修会	17:30受付	18:00開会
		参加費: 講演会 無料	
会場: ホテルグリーンタワー幕張 講師: 富澤 暉氏 (元自衛隊陸上幕僚長) テーマ: 我が国、防衛の現状と問題点			
3/25(火)	定例夕食会	18:30開会	参加費 3,000円 会場: 鯨割烹みどり 卓話未定
4/5(土)	春の宴	内容未定	
4/9(水)	役員会	18:30開会	プラザ菜の花
4/22(火)	定例夕食会	18:30開会	参加費 3,000円 会場: 鯨割烹みどり 卓話未定

会員異動 * 役職変更

御園 一成氏

(株)ジェイシー教育研究所

代表取締役 → 取締役会長

編集後記

30年ぶりの高校の同級生と、担任の先生と飲む機会がありました。ほとんど変わらない友、結構変わった友、30年の月日はやっぱり長いですね。でも中身は変わらずそのまま、昔話に笑い転げてしまいました。その集まるきっかけは、昨年10月の経営研修会後の懇親会のコーラスグループ、ダンディーズのメンバーに担任の先生がいて、先生から声をかけてくれたのです。その時はちょー驚きました。ホント、出会いに感謝、感謝です。(星野)